

ICP-OES/ICP-MS および前処理を含めた環境サンプル分析のヒント

オンデマンドウェビナーのご紹介

このような不安をお持ちでないでしょうか

- 装置を正しく使用できているか不安
- 機器が示す測定結果が正しいか不安
- 消耗部品、容器を適切に扱えているか不安



ICP-OES における環境サンプル分析のヒント

機器分析では何らかの濃度結果が得られますが、その数値が正しい濃度結果とは限りません。簡易的な妥当性評価方法および問題があった時の対処方法を紹介します。また、多検体を測定することが多い環境分析において、継続して安定した測定をするためのヒントについても紹介します。

スライド例

① 正しい濃度結果を得るためのヒント

ICP-OESやICP-MSなどの機器分析では、算出された濃度結果が正しい数値を示しているとは限らない

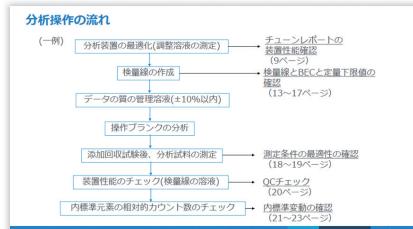
- 試料をサンプル試験液に調製する際に、汚染・揮散・吸着・沈殿などが発生することがある
- 試験液中に同じ濃度の元素が含まれていても、同じ強度（信号）が得られないことがある
- 上記を考慮せよ、測定結果として濃度は算出されてしまう（これが落とし穴）
- 妥当性評価をしない限り、上記の問題に気付かないとが多い

ポイント
濃度結果に影響をおぼす要因を確認しておくと、間違った結果を報告するリスクを軽減できる

ICP-MS における環境サンプル分析のヒント

環境試料の ICP-MS 測定において、測定結果の妥当性は確認されていますか。アジレントが日々行っている測定結果の妥当性評価や ICP-MS のメンテナンス方法などを紹介します。

スライド例



アジレント・テクノロジー株式会社
DE19955286
〒192-8510 東京都八王子市高倉町 9-1
フリーダイヤル 0120-477-111
www.agilent.com/chem/jp

オンデマンドウェビナーへのアクセス

URL : <https://www.chem-agilent.com/seminar/detail.php?event=8ba7dc830d64f>

検索エンジンにて **アジレント 環境サンプル分析のヒント** で検索

